

# 問題児の指導と治療

## — 盗癖の子どもについて —

江戸川区立松江幼稚園

高橋 登喜子

幼稚園で私が受持った級にMという子がおりました。家庭も普通でしたのに、大変乱暴で落ち着きがなく一寸の事で友達をなぐったり、遊具の危険な使い方をしたりして、みんなに迷惑をかける始末でした。私は、Mの指導について、色々と考え、家庭を尋ねて両親と話し合う事は勿論、子どもとのつながりを深くしたいと思い、特にその機会をもうけて、Mと二人だけで遊んでみたりしましたが、ますます問題行動がひどくなるような事ばかりで、三月卒業する迄とうとうそのままの状態で幼稚園を終ってしまいました。

もう一例は、前記の子どもとは全く正反対なTという子どもで、友達とも全然遊ぼうとせず、またTも自分から遊びを抜けてしまうという子どもでした。

乱暴な子どもはつい目にあまるので心配になるのですが、このように非社会的な子どもは、ともすると目こぼしになり勝ちで、この子どもの取り扱いについて、いろいろと考えてやってみました。家庭とも十分な連絡をとり、幼稚園でもT君のはいり易いような遊びや、仕事の場をつくったりする一方、区の教育相談室へ向けて遊戯療法を受けるようにしました。二学期の終り頃から少し積極的になったように思いましたが、三月にはまたそのような状態にもどったような気がしました。

これらのケースを通じて私自身問題児の取り扱いについて反省させられる点が多くなってまいりました。そしてM君にしろT君にしろ、二人は全く正反対の行動……（攻撃的な行動や、内面的な性格面）ですが、これらはいずれも、その子どもの欲求不満からくるものが、多い事を知りました。

また、その行動面とか環境にのみ意を用い、子どもの気持を受け入れる事ということを忘れていたのではなかったかしらと気が付いたのです。

そこで江戸川区の教育相談室を訪れ、問題児の指導と治療についていろいろと相談員の方におききしたり、自分で考えたりしてまいりました。

幼稚園の時代は心理的にみても未分化の時代で、特に母親との関係は重視されなければならないわけですが、この地域においては母親が自己の感情におぼれ、自己の型に倣けることに汲々として子どもの欲求をいろいろ阻止している例をしばしばみうけます。

問題児とよばれる子どもの多くは、殆んどといってよい程、家庭の環境や家族、とくに母親の子どもに対する取り扱い方に起因することが多いようです。

このようなさまざまな家庭環境に育まれた子どもが集団生活を共にするわけですから、そこには、いろいろな問題行動がでてくると思います。私の級の調査を例にとってみますと男児の場合は攻撃、反抗、女児の場合は意地悪が多くなっています。

これらの子どもを取り扱う上において、最も考えなくてはならない二、三の点を考えてみました。

### ◎ 子どもの気持を受け入れてやる

子どもは自由と寛容の雰囲気に入ると独りでに自己の道を発見し、自己のすすむべき方向をつかまえます。子どもが意地悪をしたら、その行為だけに目をうばわれることなく、そうせざるを得なか

った子どもの気持をうけいれてあげる事によって、その子どもが自然に解決の方法を考えるであろうという事。

### ◎ 子どもの人格を認めてやる

子どもは子どもなりの自負心もあり承認欲もあるわけで、これらを満足させてやることによって子どもは素直さをましてくるものです。

### ◎ 子どもの自主性を尊重する

子どもは、自然の中においては、何かをしなくてはならない活気に満ちあふれております。子どもの自主性を尊重することにより、子どもは喜んで作業をしたり、リズム遊びに参加をします。

これ等の事は子どもの欲求を満足させるわけで、具体的には遊び場をつくってやったり、いろいろな作業に参加させるようにしたり、その他子どもに応じた指導を考えてやっております。

両親と緊密な連絡をとるのは、申すまでもないことですが、個々に事例観察記録をとり指導上のがかりとしています。

また区教育相談室と連絡をとり「手に負えない子ども」は双方の共同研究の形で治療をすすめている次第です。

以下K子ちゃん——(盗癖の子ども)——の記録をたどりながら指導と治療の経過をみてみることにします。

## K 子の記録（盗癖の子ども）

K 子は昭和二十五年生れで家族は両親と妹二人（四才、一才）の五人暮らしで経済的にはあまり恵まれていないようです。両親も子どもへの教育には熱心ですが、非常に厳格で、とくに一才の子が生まれてからは、H 子に愛情が集中し、K 子に対してはやや関心がうすくなったようです。この頃から家の金を持ち出したりうそをついたりする問題行動が始められ、父親はその場その場をとらえて叱ったり、叩いたりしたが、ますます他人のものに手をつけたりするようになり両親も手に負えなくなってきました。

四月の入園当初 K 子は大変面白い感じのする子どもという印象を受けました。まだ他の子どもたちが遊べなくなっている時にもうまごごとをしたり、男児とけんかしたりしました。そんなようすでしたが、恥かしがるというのか、みんなが一人ひとりスキップをする時等は、やらなかったり、ときどき返事をしなかったり、長泣きをするといった事もありました。

六月十二日 茶色のメリヤス靴下でつくった手製の縫ぐるみ人形を家に持って帰った。お母さんに言われた時は、友達がくれたといったが、次の日、持ってきた。

七月三日 他の組の子どもの、白い夏靴をはいて遊んでいた。私は気がつかなかったので、K 子ちゃんの靴だとばかり思い「K 子ち

ゃんいいお靴ね」と言うと、だまって下を向いていた。帰りのときに他の組の子が泣き出して、靴がない事が解ったが廊下にぬぎすてであった。

七月六日 机の上に置いてあった、自由画帳がなくなった。新しい子どもに渡そうと思って、万年筆を職員室へとりに行って、もどってくるとなかった。後でしらべてみたら、K 子ちゃんのとこに二冊あった。少しかいてあった。

七月九日 お盆が近くなって、下駄をはいてくるものが多くなった。水のはいった中に、金魚がういている可愛いサンダルを、遊びの時にはいていた。他の組の子どもがなげと騒いだのでわかった。「あたしもほしい」と後で言った。

七月十日 K 子ちゃんは、黒の長靴を、はいてきたのだが、そのうち、赤い長靴をはいて遊んでいた。お昼頃、他の組の子どもが泣き出してわかった。

七月十二日 最近、幼稚園であまりひんばんに、他の組の子どもの履物をはくので、お母さんに話をした。

七月十四日 家で強く叱られたらしい。朝頭が痛いというので熱を計ると大分あるので休んでいいという何ともなくなる、というような事をお母さんがみえて話して下さった。

七月十八日 家でお金をこまかした。

七月二十日 一学期の終りの日、「夏休みがきて、うれしいわね」「お休みなんか、ちっともうれしくないや」「どうして」「知らない」一日中機嫌が悪かった。

### 相談室での治療

K子の母親が相談室を訪ずれたのは七月十八日の午後であった。K子の盗癖と、うそつきを問題にして訴えてきた。相談室での治療は五回で終わった。

#### (第一回)

母親は妹二人と、本人を連れて来室。K子はすぐ下の妹のN子と一緒に遊戯室へ行く。玩具を机の上のいろいろと並べるとN子は、さっさと自分の遊びをするが、K子はN子のいわれるままにお皿を持って来らせられたり茶碗を洗わされたりしていた。

#### (第二回)

第一回では妹に主導権をとられていたので二回目はK子だけにした。ミルクのみ人形を水に入れて洗ってやったりしていたが、突然母親のところに行き、耳うちすると、母親が出てきてK子のする遊びをみていた。K子は得意でミルクのみ人形をハンカチでふいたりしていた。

#### (第三回)

一人で遊戯室でミルクのみ人形で遊ぶ。椅子にどっかりとあがりこんで、おしゃぶりをしゃぶっている。

#### (第四回)

いろいろの組み立て玩具や、人形でもって構成的な遊びをして、椅子にのったり一人で騒ぐ。人形を水に入れて、石けんで洗い、同室のM君と、最初はぶすーとして口もきかなかったが、次第に仲良くなり一緒にままごとをするようになった。

#### (第五回)

妹のN子とともに遊戯室に入る。K子は姉らしくふるまえるようになり、人形ごっこや着物を並べたりして楽しげに遊んだ。

母親もK子とともに治療が行われ、最初はK子の盗癖について話され、父が非常に叱るが、かえって反撥して手に負えないといった。回が進むにつれてK子が落ち着きのできた事がのべられ、母親自身も育て方にあやまりのあったことを認めた。

\*

\*

\*